

## 改訂指導要領の検討(日本史について)

光 谷 音 吉

指導計画作成に先立ち、ひとまず改訂内容の特色を理解するため、種々の問題点を検討してみた。

- 45年の5月に要領案が示されて以来、いろいろと説明会、伝達講習会などがあったわけですが、日本史の場合、この改訂は何をねらいとしているのですか。

—— 説明によれば、高校進学者数の増大・多様化という傾向の中で、物心両面ともに大きな岐路に立つ今日の生活から、やがて21世紀に生きるべき生徒たちが、何を学んだらよいか、また、いかなる判断力によりその社会を生き抜くかを考慮し、現行の主旨を受け継ぎながらも、その主旨をよりよく生かすために、今までに出された各地域や学校などでの諸研究、実践報告をふりかえり、いわば、その交通整理者の立場で整理に当たったというのが今回の基本的姿勢であって、できるだけ各地域、各学校で弾力的指導が可能ないように、国としてのきまりも少し、内容の精選・歴史的思考力の養成・学年指定的な面への新しい要望などに重点をおいて作業をすすめた、と、いっています。

- 結果として示された目標や内容では何が目立ちますか。

—— 項目数の縮少や字句の修正などでいろいろとり沙汰されている点もあるようですが、原則的には現行の踏しゅうでもありますから、あまり変り映えしていないといえませんか。

目標では、表面的なことですが

- 1 項目が1つ減って5項目になっていること。
- 2 意識してであろうかと思われるのですが、現行では数か所にわたって使用されていた「社会」という語が、改訂では、ただ1か所だけで使用されているにすぎず、それに比べ「文化」という語がよく目につくこと。
- 3 系統的学習ということばが(——説明では、この語句を使用してきたら教科書の内容が細かすぎる傾向を示したので省いたのであって、決して本来の気持ちを変えたわけではない、とのことであるが——)見られなくなったこと。
- 4 「国民としての自覚」「国際協調」、とくに、5月の要領案では見られなかった「歴史的思考力をつちかい」、などの新しい語句を使用して改訂の主眼点を示していること。
- 5 「世界的視野に立つ考察」から「世界の歴史におけるわが国の歴史の考察」と表現を変えて、扱い方に注意を喚起していること。
- 6 「史料」という語句が(——今まで使用された結果、非常に難解な史料がやたらに多く使われかけて、本来の趣旨にもとることにもなったようで——)「資料」に変えられていること。

などが、目立ちますね。

- 「社会」と「文化」の使用される語句数のことが多少気になりますが。

—— 語句数の多少については、やはり気になることばでもあるから、別の表現たとえば第1項、第2項などにみられるように「時代背景」とか、「歴史に関する基本的事項」などの語句の中に含ませてしまったと思われる面と、第3項の「わが国の社会と文化が」を、改訂第4項の「文化の創造発展および伝播に関する」などで示しているような面、すなわち、現状の中でややもすれば社会経済史的な面の方に偏重する傾向や、階級的対立意識だけが漸増する傾向を考慮したと思われる面があるように感じますね。ある面では、何かに対する責任回避的な消極的姿勢とでもいえる表現だと思います。ことばの消去によって、従来の漸増的学習指導の内容と姿勢が修正回避され得るものであるかどうかの問題が残ると思います。教科書の中の語句の使いかたには効く面はあるとは思いますが。

○ 「内容」の項目配列をみて気づくことですが、大項目(4)まで、つまり明治以前はすべて大項目が「○○文化の形成と展開」ということばで統一表現されていて、第5項以下と大きな違いを示していますが、これは、明治以降だけは構造的に歴史としての総合的な扱いを十分におこない、それ以前については、単なる文化遺産や高度の芸術の羅列にだけ視点をおく文化偏重の学習でよいということでしょうか。

—— もちろん「文化」の中には、狭義の学問・芸術・思想といった面も含まれていることと思います。しかし、ここでは現行指導要領の解説にも説明されているような「生活文化」の意味がそのまま受けつがれ表現をくふうして変えただけだと思います。

各時代の政治の動きや社会経済の動向が反映して文化を特色づけることや、反面、生み出され育てられた思想や学問が、政治や社会の方向を決定して、その時代の在り方を特色づける場合もあるわけであって、このような、生活の中における政治、経済、社会、文化の相互の密接な関連性を考察し理解することは、中学校の段階では十分な学習が到底できない事情にあるから、とくに、高校の段階ではその点に留意して、生活文化の展開の背景を理解するのに必要な程度で、政治、経済、社会などの事情をとりあげるといふ意味だと思いますね。

しかし私は、「生活文化」や「時代意識」などの、時代的特色を理解させようとのねらいを軽視するというわけではありませんが、目標の(4)項に示された文化遺産の理解と尊重の趣旨を重視し、「内容の取り扱い」(1)項の(ウ)の趣旨に添うような枠組の設定が、近代以前にほしいと思います。近代以前の事がらで直接目にふれるもの以外は、歴史を学習する生徒たちにとっては、あまりにも程遠い別の世界の動向であるように感ずる面が多いと思います。生活の中での関心事の多くは直接的な文化遺産や習俗のことであり、身近かに目に触れ膚で感ずる数多くのそれらの理解そのものを表面につよく押し出して、ややもすれば観光的理解という雰囲気、軽い取り扱いに終始しがちな今日の生活の中で、慎重に、その時の人たちが、いかなる生活環境の中で、いかなる思いや願いをこめて、それらを育て、守りつづけてきたのであろうか、などの歴史的理解と自覚が育てられることを目的とした項目の配列とか、新規の枠組み、が作られたらと思います。教科書には従来の型というものがあろうだから、新しい型に仕上げるのはむづかしいことと思いますが。

○ 「歴史的思考力をつちかい」が、とくに強調されているようですが。

—— 要領案の中にはこの部分がなかったわけですが、とくに加えられた語句として注目されます。

おそらく、案の段階では、とくにこれを強調するまでもなく、基本的事項の考察や理解の中で当然養われるべき能力として含まれていた筈であり、ただ、「内容の取り扱い」で、生徒の

「歴史的思考力をいっそう深めるため」として、主題学習のことを織り込んでいたのを、改めて、要領の目標に組み入れたようです。現行の要領でも、目標の中にはとくにこの語句は使用されていませんし、歴史学習の在り方としては自明のことであったと思います。自明のことが、あらたまって指示されているのは、つまり主題学習実施の試みにその主旨があるのだと思います。

これが考えられた背景には、おそらく今日の大学入試と関連して、多くの普通課程における日本史学習が、暗記中心の受験勉強的な無味乾燥な、与えられたものを受けとるだけの学習に傾いていることに対する警告と反省があるのではないかと思います。高校における歴史教育の本質的な姿勢が、現行の要領では忘れられていたからというのでは決してないと思います。しかし、受験科目的意識でゆがめられる問題点を、これによって是正し片寄りを防止し、本来の学習姿勢でより一層の効果をねらう意味は十分了解されます。ただし、それに伴う種々の問題点についての適切なくふうが必要であり、なかなか大変なことだと思います。

改訂では選択制となっていますが、本質的には、受験科目としての選択であってはならないとしても、選択する生徒の立場からは、現行の必修制よりもっと受験科目的色彩が濃くなっていくという避けられない一面があると思います。また、世界史における主題学習の実施に関しても、いろいろ問題点を耳にしますが、それらと共通した新しい課題と取り組まねばならぬことも必至だと思います。たとえば

- 普通の授業だけでも時間数不足が指摘され、十分な指導の展開を妨げている中で、1主題に何時間をあてることが可能なのだろうか。要領の中には、主題数の指示はあるが、その時間数についてはとくに記すところがない。所定の学習内容の履習に妨げのない範囲であるに違いないが、年間三単位で5時間を超えれば大きな支障が考えられます。
- そうかといって、短時間に主題の講義という方法で扱われていけば、「史的思考力を深める」というねらいからはおよそ遠くはなれた、表面的学習に終わってしまうことは必定です。
- 自発的学習と研究が考えられても、参考書や資料の適切なものを必要分量用意することがむづかしい面もありますし、全生徒が発表する時間的余裕も全く考えられません。
- テーマの選択も、手軽なものをえらんでお座なりのレポート作成でお茶をにごす程度で終わってしまう。

と、というようなことをよく聞きます。

そこで考えられることですが、今度の改訂でクラブ必修の発想の一つであるといわれる考え方、すなわち、この時間だけは、点数や試験とは全く無関係な時間であるという環境の中で、問題にとり組んでいけるような配慮ができないかということです。歴史的思考力のねらいは、常時、学習される各課題の中で、教師の慎重に配慮された教材の取り扱いや授業の展開、あるいは、くふうされた書き方の教科書を提供する、などによって、達成に努力すると共に、世界史の場合とちがって、日本史の場合は舞台が身近かなだけに、日本史の学習素材が織り込まれた学校行事が実施されるような機会を十分に活用して、事前学習、旅行学習ノートの作成、事後の処理、グループ活動や個人研究の時々、それぞれの学習や作業を通し、事情に合った適切な指導をおこなうことの方が、限られた単位時間数内の、点数に追いつけられるような中での主題学習に取り組むよりも、本来のねらいに添う効果が期待できるのではないのでしょうか。

○ テーマの選び方や実施時期などにも問題がありますが。

—— 今はまだ具体的に考えていませんが、一応、次のようなことも予測しています。

- ・ 発行される教科書で、おそらく適当な主題と資料が示されることと思いますが、それに従って特定のものをえらび、歴史の流れの中の然るべき時期（たとえば、〘仏教と日本文化、〙などが考えられた場合、様相の変化がみられる桃山文化の段階で、過去の時代の在り方を総括的にふりかえってみる、など）に、既習素材をもとにして、視点をあらためて再検討する。
- ・ 休暇などを目安に、自由にテーマをえらばせて自由研究とし、研究の過程に重点を置いて、個々に、あるいはグループ毎に適切な指導を与え、発表（紙面、口頭）の形をとる。
- ・ とくに地方的に特色あるテーマをいくつか設けて（九谷焼、能楽、一向一揆、藩政など）、概観的学習であったものに直接的具体的内容を加えさせることにねらいを置いて、教師の指導面にも注意して、学習を進める。
- ・ 日本史の履習学年中ということからはなれて、1年の大和旅行、2年の東北旅行などの機会をこれにあて、事前学習と学習ノート作成時に重点をおき、特定の人物や事象について調査検討させると共に、適切な配慮で用意された教師の質問事項などをより所に、観光案内的片寄りを是正しながら自らの歴史的思考を深める機会にする。

ともかく、実験してみました失敗に終わったので、いいわけも出来ないことですから、実施までには十分な検討がほしいと思います。

以上とりあげた問題のほか、案の段階にくらべ、とくに表現に変化がみられるおもな箇所を注意してみると

- ・ 内容の(1)では、日本が除かれて〘民族の起源、〙として示され
- ・ (2)では、説明文中に、参考までに軽くというような意味にうけとれた接続詞〘なお、〙が除かれたこと
- ・ (3)では、示されていなかった〘戦国大名、〙がとりあげられてきたこと
- ・ (5)では、〘日本の経済の発展、〙が〘近代産業の発展、〙と、わずかに表現を変えたことや、説明文中に、〘身分制度の廃止、〙・〘政治思想の展開、〙を入れて、〘民権論と国権論、〙・〘新旧思想の対立と混乱、〙などの語をしまいこんでいること
- ・ (7)では、〘議会制民主政治の進展、〙がとくに加えられたこと

などがあげられるが、殆んど案の段階と同趣旨であるように考えられる。改訂について、しばしば、国家主義的国民科への変貌、安保体制下の国際協調、体制順応的な理想的人間像、などに目標を偏在させた姿勢であるという声をきくが、この際、教科書の書き方にも十分な注意とくふうをしてもらうことを願うとともに、学習指導に直接関係するものとして、本来の歴史学習の在り方を自覚し慎重に臨みたいと思う。

(46. 8. 30記)